

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2001-518408 (P2001-518408A)

【公表日】平成 13 年 10 月 16 日 (2001.10.16)

【出願番号】特願 2000-513732 (P2000-513732)

【国際特許分類】

B 3 2 B 5/18 (2006.01)

C 0 3 C 27/04 (2006.01)

C 0 8 L 63/00 (2006.01)

C 0 8 L 67/00 (2006.01)

C 0 9 J 7/02 (2006.01)

【F I】

B 3 2 B 5/18

C 0 3 C 27/04 D

C 0 8 L 63/00

C 0 8 L 67/00

C 0 9 J 7/02

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 8 月 29 日 (2005.8.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 (a) 第 1 および第 2 主面を有する適合性、圧縮性、溶融流れ耐性フォームコア層と (b) 前記コア層の前記第 1 主面上の熱硬化性シーラント層とを含み、前記シーラント層が基材と接触させることができる面を有する物品。

【請求項 2】 第 1 基材を第 2 基材に接合する方法であって：

(a) (1) 有限の厚さを有する縁端領域で分離された第 1 主面および第 2 主面を有する第 1 基材と；

(2) 第 1 および第 2 主面を有する適合性、圧縮性、溶融流れ耐性コア層であって、前記コア層がその第 2 主面において、

(i) 前記第 1 基材の前記第 1 主面、および / または

(i i) 前記第 1 基材の前記縁端領域に取り付けられ、

前記コア層が振動減衰性を有するコア層と；

(3) 前記コア層の前記第 1 主面上に設けられた熱硬化性シーラント層であって、

前記シーラント層が第 2 基材と接触させることができる面を有するシーラント層とを含む物品を作製し；

(b) 前記シーラント層を第 2 基材と接触させて、前記シーラント層を介して前記第 2 基材を前記第 1 基材と接合させることを含む方法。

【請求項 3】 前記第 1 基材がフロントガラスを含み、前記第 2 基材が前記フロントガラスを保持するフレームを含む請求項 2 に記載の方法。